

# 部屋と庭 隔たりの形式

—武蔵野美術大学教員による小企画

Room and Garden The Form of Distance



図版 1. 小林耕平



図版 2. 鈴木基真



図版 3. 森田浩彰



図版 4. 後藤映則



図版 5. 杉浦藍



図版 6. 石川卓磨



図版 7. 富井大裕

会期：  
2020年11月30日(月)  
— 12月19日(土)

会場：  
武蔵野美術大学美術館  
展示室 1

武蔵野美術大学 美術館・図書館では、本学の教育を支える若手・中堅層の教員7名による小企画「部屋と庭 隔たりの形式」を開催します。映像や写真、彫刻など、様々なメディアを用いて表現を試みる石川卓磨、後藤映則、小林耕平、杉浦藍、鈴木基真、富井大裕、森田浩彰の作品を紹介します。

※本頁の図版キャプションは次頁に記載しています。

開館時間：10:00-18:00（土曜日は17:00閉館）

休館日：日曜日 入館料：無料

※会期などは変更になる場合があります。

主催：武蔵野美術大学 美術館・図書館 企画協力：松浦寿夫(本学美学美術史研究室 教授)

## 展覧会について

私たちが生活する「部屋」には、家具や日用品といった見なれた事物が遍在すると同時に、目に見えない時間や記憶が折り重なり、私的な気配が漂います。そして内的な部屋と接する「庭」は、外的空間へと接続する中間域であり、外と内への視線が交じりあう曖昧な領域として、世界と私たちを不確かに隔ちます。部屋は内的な小宇宙を包みこむ容れ物のように、庭はその先にある外界との距離を確かめる隙間のように、私たちの世界をかたどる形式として、存在しているといえるでしょう。

本展では「部屋と庭」をめぐり想起される様々な事象——日用品と記憶、時間と痕跡など——を起点として、現代作家7名の多様な表現が集います。彼らの作品によって織りなされた「隔たりの形式」は、見過ごしがちな日常の風景のなかで、大きく揺らぎ、かたちを変えていく世界の姿を再認識するひとつの試みとなりえるかもしれません。

## 1 頁の図版キャプション

図版 1. 小林耕平《東・海・道・中・膝・栗・毛》2016年

ビデオ・インスタレーション 撮影：中川周

©Kohei Kobayashi, Courtesy of ANOMALY

図版 2. 鈴木基真 untitled 2007年

木彫、台座 720.0×270.0×175.0cm 撮影：加藤健

©Motomasa Suzuki, Courtesy of Takuro Someya Contemporary Art

図版 3. 森田浩彰《Mobile Catalogue (Converse All Star)》2017年

ミクストメディア サイズ可変 撮影：松尾宇人

©Hiroaki Morita, Courtesy of AOYAMA | MEGURO

図版 4. 後藤映則《toki- WALK #01》2015年

ナイロン 41.0×41.0×10.0cm

図版 5. 杉浦藍《Spatial drawing》2017年

スチール、合板、石膏、塗料、壁紙 撮影：加藤健

©Ai Sugiura

図版 6. 石川卓磨《小説の中の私 (I in the Novel)》2019年

HD video with sound 17分12秒

©Takuma Ishikawa, Courtesy of TALION GALLERY

図版 7. 富井大裕《NR (踊るノート) #18》2019年

便箋、クリップ、釘 29.5×23.0×7.0cm 撮影：柳場大

©Motohiro Tomii, Courtesy of Yumiko Chiba Associates

## 作家紹介



石川卓磨 《小説の中の私 (I in the Novel)》2019年  
HD video with sound 17分12秒  
©Takuma Ishikawa, Courtesy of TALION GALLERY

石川卓磨(本学 造形学部芸術文化学科/造形構想学部クリエイティブイノベーション学科非常勤講師)  
1979年千葉県生まれ。2004年本学大学院 造形研究科修士課程美術専攻油絵コース修了。  
高速連写によって捉えられた作品は、未分化な領域を意識的に示唆する。  
主な展覧会歴：2019年「小説の中の私」TALION GALLERY (東京)、2016年「真空を含む」国際芸術センター青森



後藤映則 《toki- BALLET #01》2017年  
ナイロン 14.3×53.0×53.0cm

後藤映則(本学 造形学部視覚伝達デザイン学科専任講師)  
1984年岐阜県生まれ。2006年本学 造形学部視覚伝達デザイン学科卒業。  
古くから存在する手法やメディアを捉え直し、3Dプリンターなどの現代のテクノロジーと掛け合わせることで、時間や動きの可視化を試みる。  
主な展覧会歴：2019年「オープン・スペース 2019 別の見方で」ICC (東京)、2018年「Prix Ars Electronica Exhibition 2018」OK Center (リンツ・オーストリア)



小林耕平 展示風景「あいちトリエンナーレ2016」  
(豊橋駅前大通会場、2016年) 撮影：大西正一  
©Kohei Kobayashi, Courtesy of ANOMALY

小林耕平(本学 造形学部油絵学科准教授)  
1974年東京都生まれ。1999年愛知県立芸術大学 美術学部美術科油画専攻卒業。  
パフォーマンスや対話の様子を記録した映像作品やインスタレーションを制作。「ものや事象を鑑賞することで、どのような経験をつくり出すことができるのか」をテーマに、鑑賞者の認識の転換を喚起する。  
主な展覧会歴：2017年「小林耕平×高橋耕平『切断してみる。—二人の耕平』」豊田市美術館(愛知)、2014年「パランプセスト 重ね書きされた記憶/記憶の重ね書き vol.4 小林耕平」gallery αM (東京)



杉浦藍 プロジェクト「Plants outside the door」  
2013年より ©Ai Sugiura

杉浦藍(本学 造形学部油絵学科/造形学部彫刻学科非常勤講師)  
1982年愛知県生まれ。2007年本学大学院 造形研究科修士課程美術専攻彫刻コース修了。  
彫刻やインスタレーション、写真を用いた作品を通して、日常にある表裏を持つ物質や空間、日常から非日常へ横断するものの在り方を考察する。  
主な展覧会歴：2019年「Some Ways to Know Spring has Sprung」Si:said gallery (クライペダ・リトアニア)、2017年「通り過ぎて、ふと止まる」HAGISO (東京)



鈴木基真 展示風景「未完の庭、満ちる動き」  
(国際芸術センター青森、2017年) 撮影：加藤健  
©Motomasa Suzuki  
Courtesy of Takuro Someya Contemporary Art

鈴木基真 (本学 造形学部視覚伝達デザイン学科非常勤講師)

1981年静岡県生まれ。2004年本学 造形学部彫刻学科卒業。

映画やゲーム、インターネット上の画像を基にした建物や街をモチーフに、独自のスケール感を持った木彫や高い台座によって風景を生み出す。

主な展覧会歴：2018年「未完の庭、満ちる動き」国際芸術センター青森、2017年「VOCA展 2017 現代美術の展望—新しい平面の作家たち」上野の森美術館 (東京)



富井大裕  
展示風景「コンポジション —モノが持つルール—」  
(ATELIER MUJI/東京、2018年) 撮影：柳場大  
©Motohiro Tomii  
Courtesy of Yumiko Chiba Associates

富井大裕 (本学 造形学部彫刻学科准教授)

1973年新潟県生まれ。1999年本学大学院 造形研究科修士課程美術専攻彫刻コース修了。スーパーボールや鉛筆、紙袋などの既製品に最小限の手を加え、それらを固定された意味から解放することにより、彫刻のあらたな可能性を模索する。

主な展覧会歴：2018年「コンポジション —モノが持つルール—」ATELIER MUJI (東京)、2011年「MOT アニュアル 2011 Nearest Faraway |世界の深さのはかり方」東京都現代美術館



森田浩彰《Speed of Time (Mito)》2008年  
HD video with sound 720分  
©Hiroaki Morita  
Courtesy of AOYAMA | MEGURO

森田浩彰 (本学 造形構想学部クリエイティブイノベーション学科非常勤講師)

1973年福井県生まれ。1998年Bゼミスクール、2002年ロンドン大学ゴールドスミスカレッジ大学院ファインアート修士課程修了。

映像やインスタレーションを用いて、生活の中で当たり前存在しているが特に意識されない物事を見つめ、それらの中に折り重なるコンテキストや関係性を可視化する。

主な展覧会歴：2017年「Triple Point of Matter」Fondation Fimincio (パリ・フランス)、2016年「Something to Something else」青山 | 目黒 (東京)

お問い合わせ先：

武蔵野美術大学 美術館・図書館

東京都小平市小川町 1-736

phone: 042-342-6003 fax: 042-342-6451

<https://mauml.musabi.ac.jp>

広報担当

mail: [prmsm@musabi.ac.jp](mailto:prmsm@musabi.ac.jp)

プレス用図版をご希望の方へ：

- ・下記の注意点をご参照の上、ご希望の図版と、必要事項をEメールにてお知らせください。  
(お名前、ご所属、電話番号、Eメール、媒体名、掲載号、発行予定日、コーナータイトル)
- ・指定のクレジットを必ず明記してください。
- ・原則的には図版のトリミング、部分使用、文字載せはご遠慮ください。
- ・掲載内容確認のため、発行前にPDF等で原稿をお送りください。
- ・紙媒体は掲載見本のご寄贈 (掲載ページのPDF可)、ウェブ媒体は掲載ページのURL お知らせをお願いします。